

2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年 3月 27日

報告者	学科名	工芸工業デザイン学 科	職名	教授	氏名	難波 久美子
研究課題	いぐさの創造的価値のためのテキスタイルデザイン研究					
研究組織	氏名		所属・職	専門分野	役割分担	
	代表	難波 久美子	工芸工業デザイン学 科・教授	テキスタイル デザイン	統括、 染色分野研究	
	分担者	渡邊 操	工芸工業デザイン学 科・准教授	テキスタイル デザイン	織物分野研究	
研究実績 の概要	<p>倉敷物語館で岡山いぐさを新しい視点でデザインし作成した使ったライトシェードのプロトタイプを展示し意見聴取を行った。いぐさは草木染めしたものから色味を赤系・青系・黄色系に定め、染料はアカネ・アイ・マリーゴールドを用い、媒染剤はアルミ・鉄を用いた。従来のイグサの密なる集積による面を水平使いするのではなく、粗で隙間を生かした面を垂直使いする試みであった。また、通常は生産時に裁断し廃棄する尖った穂先をそのまま使い、草を前面に押し出す工夫をした。植物の柔らかさと光が天然染料にマッチして魅力的だった・自宅のインテリアに使用したい・という意見を多くの方々から聴取できた。照明アイテムであれば高い摩擦堅牢度は求められず、光に対する堅牢度が重要である。よって、天然染料されたイグサをおったものの日光堅牢度を岡山県工業技術センターとの共同研究の一環で試験した(資料1)。色味の強いものが堅牢度が高い・マリーゴールドの黄色が堅牢度が低いことが判明した。判定結果には4級や4級以上の判定のものもあり、想定よりも堅牢度は悪くなかった。さらなる堅牢度の向上は今後の研究で試みるべきではあるが、一方で、その退色状況を試験結果等級数値ではなく目視比較観察すると、植物であるイグサの天然染料色の経年変化として一般的使用においては受容できるレベルと捉えることができると考察した。これは今後の天然染色における研究の新しい方向性として一石を投じることができたのではと考える。</p> <p>台南芸術大学の研究者との研究交流の中で、台湾イグサは断面形状も異なり、ワタが縦方向裁断と打ちならしで編み技法に必要なしなやかさを獲得する。日本イグサは特徴の一つとして皮質内部のスポンジ状のワタがあり、そのクッション性と織り技法により畳など敷物展開され人々の生活に利用されている。日本イグサの天然染色実験ではワタに染色され表皮はなかなか染色できなかつたことと比較して、従来の化学染料で染められたワタは白いままであったことから、「染色時間」と「ワタの吸引力」に着目することができた。これにより、今後の染色法改善の可能性を見出すことができた。</p> <p>台湾国立台南芸術大学の材質デザイン・アーツ学部教員(テキスタイル) : Lu, Chia-Hui による台湾イグサを使用したワークショップを開催した。本学学生も参加し、岡山のイグサとの違いについて、話を伺い材料を使って編み技法を体験することができた。そして、渡邊准教授がWSに参加学生とともに台湾国立台南芸術大学を訪問した際には、実際に台湾イグサを使用した作品を見ることができた。今後、テキスタイル素材について学ぶ授業についてオンラインで講義いただく予定である。</p>					